YOKOHAMA HEALTHCARE PROFESSIONALS &ADMINISTRATIVE STAFF

Job Information

横浜市医療技術職員・行政職員採用案内

横浜市立市民病院
Yokohama Municipal Citizen’s Hospital

横浜市立脳卒中・神経脊椎センター
Yokohama Brain and Spine Center

横浜市立病院であなたが抱く「理想の医療技術職員・行政職員」になる

横浜市立病院は、各病院が目指す医療機能の充実や地域医療への貢献を推進するため、必要となる能力を身に着けた職員の育成を目指しています。

また、その段階に応じて、「果たすべき役割」、「求められる能力」を明らかにして、人材育成の到達目標とし、組織全体で共有しています。

一般職員

職　位

能力開発・伸長期※1		能力活用期※2
職員Ⅰ	**職員Ⅱ**	**職員Ⅲ**
求められる役割	求められる役割	求められる役割
市職員としての基礎を身につける職員	能力の幅を広げ、職場を支える中堅職員	豊富な経験をもとに、職場を支え中核となる職員
市職員として必要不可欠な基礎的能力・知識を身につけるとともに、着実に業務を遂行し、新しい視点で職場の活性化に取り組む。	能力の幅を広げ、強みを伸ばし弱みを克服しながら業務遂行において力を発揮するとともに、係長を補佐し、後輩職員の指導・育成に努めるなど主体的に業務に取り組む。	高い実務能力と豊富な経験・知識をもとに、職場によい影響力を発揮する。職場の中核として係長の補佐はもちろん、組織目標の達成に向けて職場の運営や後輩職員の指導・育成に携わるなど主体的に業務に取り組む。また、経験を重ねる中で、業務上係長を時に代理し、係全体の総括的・先導的役割を担っていく。

※1　能力開発・伸長期　　個々の業務で力を発揮しつつ、能力開発と伸長に努める時期
※2　能力活用期　　主として培った経験を活かす時期

このような能力を身に着け、役割を果たすために、育成の枠組みや専門能力を習得するための支援体制を構築し、OJT を中心としつつ効果的なOFF-JT による学習の場も活用できる環境を作っています。

あなたが抱く「理想の医療技術職員・行政職員」を実現すべく、横浜市立病院を活躍のステージにしてみませんか。

高度急性期を中心とした先進的医療や政策的医療で市民の健康を支える総合病院

Yokohama Municipal Citizen's Hospital

横浜市立市民病院

●**病院概要**（令和５年４月１日現在）

病　院　長｜中澤　明尋

許可病床数｜650 床（うち感染症病床 26 床）

診　療　科｜34 科

入院患者数｜平均約 16,865 人 / 月（202,375 人 / 年）

手 術 件 数｜平均約 611 件 / 月（7,331 件 / 年）

市民病院は、急性期を中心とした総合的な病院であり、がん、救急、周産期、災害医療等、地域から必要とされる政策的医療及び高度急性期医療に積極的に取り組んでいます。また、県内唯一の第一種感染症指定医療機関として、専門スタッフを配置しています。

令和２年５月には新病院が開院しました。さらに高度で先進的な医療提供を通じて、地域医療全体の質向上に貢献していきます。

脳卒中・神経疾患・脊椎脊髄疾患の急性期医療とリハビリテーションを行う専門病院

Yokohama Brain and Spine Center

横浜市立脳卒中･神経脊椎センター

●**病院概要**（令和５年４月１日現在）

病　院　長｜齋藤　知行

許可病床数｜300 床

診　療　科｜８科

入院患者数｜平均約 7,526 人 / 月（90,315 人 / 年）

手 術 件 数｜平均約 94 件 / 月（1,133 件 / 年）

脳卒中・神経脊椎センターは、脳血管疾患に加え、中枢神経全般に対応する公立の専門病院として医療機能の充実を図っています。優れた医療を提供することはもとより、先進的な医療の実践、新たな診断・治療法の研究・開発にも積極的に取り組んでいます。また、脳卒中の救急医療、地域の保健・医療機関と連携するとともに、市民講演会の開催など、市民の健康増進にも積極的に取り組んでいます。

Job

薬剤師

横浜市立市民病院

Yokohama Municipal Citizen's Hospital

部門紹介

私達、市民病院の薬剤師が目指すものは医療安全への貢献です。

薬剤部は薬剤師、薬剤補助者、SPD スタッフで運営しています。日直・夜勤業務を行っており、救急外来の調剤・処方薬の交付を365 日 24 時間体制で行っています。

薬剤部では安全で効果的な薬物治療が遂行できるように、患者さん及び医師、看護師等の医療従事者に的確な薬物情報を提供し、すべての入院患者の薬物療法のモニタリングを行っています。また、薬剤師の役割は多くのチーム医療への貢献も求められ、がん診療サポートチーム、緩和ケアチーム、感染対策チーム等の一員として活動しています。

医療へ貢献できる薬剤師は未来永劫、自己研鑽を続け、ジェネラリストとしての幅の広さ、厚みが求められます。そのために、SPD 導入・活用、機械化の推進及び人材（薬剤師以外）の活用等を進め、薬剤師業務のタスクシフトを積極的に行い、薬剤師の求められている本来業務に努めています。

職員からのメッセージ

当院は多くの診療科を有する総合病院であるため、様々な分野に触れながら、自分の進む道を見つけられる職場だと思います。

私はより広い分野での薬物治療において、ベッドサイドで患者さんに寄り添いたいと思い当院へ入職しました。当院の病棟は単科でなく複数科の混合病棟であることから、手術や抗がん剤治療、感染症や緩和ケアなど幅広い治療に関わることができており、当初の希望通りに働けていることを毎日実感しています。調剤や混注業務、チーム医療や院内製剤業務などにも日々携わっています。

関わる範囲が広いとわからないことや不安も増えますが、その分勉強会への参加や、先輩たちに相談しやすい空気があることで安心して業務を続けることができています。産休・育休取得者も多く、休暇から帰ってきた先輩たちが頼もしく働いている姿が多い点も魅力のひとつです。新人教育のサポートにも力を入れておりますので、ぜひ一緒に働いてみませんか。

横浜市立脳卒中・神経脊椎センター

Yokohama Brain and Spine Center

部門紹介

脳卒中・神経脊椎センターの薬剤部は、令和５年４月１日現在、常勤薬剤師 19 名で24 時間、365 日、交代で救急外来や入院業務に対応しています。中央業務（内服･注射調剤）は全員で行っています。臨床業務（病棟業務）はチーム体制をとっており、全病棟に薬剤師を１名配置しています。中央と臨床業務を兼務しているため、業務シフト表を作成して見える化をはかり、業務量の偏りをできるだけなくすようにしています。薬剤師が参加しているチーム医療は、栄養サポートチーム、感染対策チーム、褥瘡対策チーム、認知症サポートチームなどがあり、薬の専門家として多職種と協働してチーム医療の推進に貢献しています。また、適切な薬物治療を提案できるよう、認定・専門薬剤師の資格取得もサポートするなど、人材育成にも力を入れています。薬科大学の早期病院見学や長期実務実習の受け入れ、近隣薬剤師会との共催勉強会も行っています。横浜市立の病院として、市民の安心・安全な薬物治療と医療安全に貢献しています。

職員からのメッセージ

当院は専門病院ですが、様々な背景を持った患者さんが多く、幅広い分野を学ぶことができます。また、急性期病棟から回復期病棟まであるため、患者さん一人一人と向き合うことができます。

多職種との距離が近く、カンファレンスの参加や病棟での相談応需、多職種と相談しながら退院後を見据えた薬剤調整を行っているので、顔の見える関係が築きやすい職場です。

入職後ははじめの２年間はトレーナーがつきサポート体制が整っており、１年目の夏には夜勤業務、秋には病棟業務と早期からさまざまな業務に携わる事ができます。わからないことがあれば自分で調べるとともに、不安なときは先輩方に相談し、よりよい薬物治療が提供できるよう日々奮闘しながら業務に取り組んでいます。

専門薬剤師などの資格取得や学会発表については、自分の興味ある分野に取り組むことができます。先輩方のサポートもあり、昨年学会ではじめて発表することができました。

職場の雰囲気は明るく、薬剤師として成長できる職場と感じています。ぜひ一緒に働きましょう。

Ｊｏｂ

理学療法士

横浜市立市民病院

Yokohama Municipal Citizen's Hospital

部門紹介

市民病院の理学療法部門は、平成２年４月から開設して 33 年の歴史があります。当時、リハビリテーション科医師１名、理学療法士１名の体制でした。令和２年５月に神奈川区の新病院へ移転し、診察室・理学・作業・言語療法室が集結して、広いスペースとなり、屋外テラスからは富士山と公園の木々を眺望できます。

理学療法士は 19 名在籍し、臨床経験平均 12 年です。認定・専門理学療法士 13 名、３学会合同呼吸療法認定士５名、心臓リハビリテーション指導士３名で、人生と臨床経験豊富な職員がいます。業務は Covid19 感染症拡大防止対策を行いながら、急性期の入院患者が主で、脳卒中、骨関節疾患、呼吸循環器疾患、がんなどの理学療法を提供しています。ICU でのリハビリテーションや心臓リハビリテーションなど急性期病院ならではのリハビリテーションも特徴です。また、フレイル・ロコモ検診などの予防医療にも介入しています。入職後は育成体制を整え、１年目からトレーナーが１対１で付き、治療技術、カルテ記載方法、書類作成などを手伝います。部内で勉強会や症例報告を経験し、学会参加や発表を行うなど自己研鑽に励めます。勤務体制は週休２日制を基本として休日リハ勤務も行い、定時終業と残業時間の縮減、ワークライフバランスを保つことを心掛けています。

職員からのメッセージ

私は市民病院に入職して約１年が経ちました。入職当初は、分からないことや覚えなければならないことが多く不安な気持ちでした。しかし、疾患に関することや理学療法評価・治療手技で悩むことがあったときは、先輩方が丁寧に教えてくださり、ときに実際に患者さんを一緒に診ていただけたりしました。なので新人でも不安を１人で抱え込まずに患者さんに向き合うことができました。

当院では部門紹介でもある通り、様々な領域に理学療法が関わっており、チーム医療の一員として病院に貢献しています。そのため必然的に理学療法士はリスク管理技術や幅広い知識や経験を身に着けることができます。ぜひ皆さんも当院で一緒に働きましょう。

横浜市立脳卒中・神経脊椎センター

Yokohama Brain and Spine Center

部門紹介

脳卒中・神経脊椎センターの理学療法部門は、総勢 40 名の陣容で、パワーあふれる若手と経験豊富なベテランが融合して患者さんの診療に取り組んでいます。対象疾患は、約６割が脳卒中、３割が脊椎脊髄・整形疾患、１割が神経難病・心疾患・その他の疾患です。令和３年 11 月からは、新たに心臓リハビリテーションが開始されています。急性期から回復期まで一貫したリハビリテーションを提供することが特徴で、早期からの機能改善と、活動性向上を意識した多彩な理学療法プログラムを実施しています。開設以来続くグループ練習やリハビリテーションスポーツは、患者さんから大人気の歴史ある診療枠になっています。また、補装具や車椅子をはじめ、歩行用ロボット、三次元動作解析装置、呼吸代謝測定機器、生活活動度計など、様々な機器を診療に活用しており、ここから研究や学会発表等の学術活動にも多くつながっています。患者さんの自立促進を目指した病棟とのプロジェクトや、地域のリハビリテーション専門職との定期的な交流もあり、理学療法部門一丸となって地域貢献に取り組んでいます。

職員からのメッセージ

社会人経験を経て理学療法士として入職し、２年目を迎えました。昨年度は職務を遂行する上で必要な知識や技術に対し不安を抱えてスタートしました。しかし、当院では新人教育プログラムが充実しているため、焦らず順序を経て業務内容や職場の特色を知ることができ、不安な気持ちは解消されていきました。また、経験豊富な先輩方が多数在籍しているため、診療に対する悩みや治療の手技について学ぶ場や教わる機会があり、患者さんの問題解決に向けたプログラムを考え診療を迎えることができました。そして、職場の雰囲気も温かく、先輩方に支えられ毎日を過ごしています。

理学療法士としての知識や技術は未熟ですが、患者さんに対して「より良くなってもらいたい」という思いを行動に移し尽力する中で、この１年間で自身の成長を感じることができました。皆さんも当院で一緒に働いてみませんか。

Job

作業療法士

横浜市立市民病院

Yokohama Municipal Citizen's Hospital

部門紹介

市民病院の作業療法部門は、令和５年４月１日現在、スタッフ８名で、経験年数 20 年以上から数年の職員が在籍し、和気あいあいと楽しい雰囲気で診療に取り組んでいます。急性期病院である当院では、疾病の発症直後・手術直後から作業療法を開始します。対象疾患も、脳血管疾患・整形疾患・神経筋疾患・がんなど多岐に渡り、これら対象者の心身の機能回復と、ADL・APDL 拡大を図ります。がん患者さんには周術期、化学療法や放射線治療の時期に加え、緩和ケア病棟で終末期にも関わります。また、心疾患への作業療法依頼も増えてきています。患者さんの入院期間は短く、転院する方が多い一方で、当院から自宅復帰する方も少なくありません。すべての患者さんにおいて開始時から転帰先に応じた生活を考え、多職種と協力して退院支援を進めることも頻繁に行います。育成体制としては、院外の学会や研修会への派遣に加え、院内の研修会、勉強会も多く、作業療法士間で定期的に伝達講習なども行います。新採用職員は、トレーナー制度を活用し、２年間は先輩職員とともに診療に当たります。リハビリテーション室は広々としていて明るい環境です。大きな一面の窓からの眺めは大変良く、テラスから一望できる富士山は職員・患者さん共に見ると笑顔になる景色となっています。

職員からのメッセージ

私は市民病院に入職２年目になります。急性期病院は初めての経験で不安ばかりでしたが、市民病院では入職１年目・２年目の職員を対象に「トレーナー」制度を導入しており、日々の業務に対してのちょっとしたことなどもトレーナーに気軽に相談できる環境です。経験豊富な先輩 OT も多数在籍しており、患者さんへの介入でわからないことは必ず誰かに相談ができることで、安心して診療を行うことができます。

入院期間が短く入れ替わりが早いので、急性期らしい忙しさはありますが、合併症が多く主疾患以外にも留意しながらの介入が必要など、それらを経験することで着実に自分の力になっていると感じます。

今年度からは部内で働き方改革もさらに意識的に取り組んでおり、時間にゆとりを持って日々の業務に取り組めています。急性期の作業療法に興味があれば、市民病院でぜひ一緒に働きましょう。

横浜市立脳卒中・神経脊椎センター

Yokohama Brain and Spine Center

部門紹介

作業療法部門には、１年目の若手から 30 年以上の経験豊かな職員まで、総勢 33 名の職員が勤務しています。急性期から回復期の脳血管疾患、脊椎疾患、神経難病の患者さんに対して、マンツーマンで診療を行っています。

広々とした訓練室は、一軒の家のような ADL 室も完備し、テーブルだけでなく、プラットホームも多数配置しているので、寝返りや坐位訓練などの基本動作練習から APDL まで、多彩な訓練が可能です。上肢機能訓練には、２台の上肢ロボット型運動訓練装置（ReoGo-J）を積極的に活用しています。高次脳機能障害の患者さんには、障害を理解し、ともにできることを確認するため、作業活動を通した訓練を行っています。

生活期の患者さんに対する上肢機能集中訓練では、医師の診察のもと、随意運動介助型低周波治療器を導入し、病棟生活の中で麻痺した手を使うため、看護部と協力した支援もしています。

患者さんに、病院に、そして地域に貢献する作業療法を目指し取り組んでいる当院で、ぜひ一緒に働きましょう。

職員からのメッセージ

私が入職した当初はプログラム設定や退院調整、他職種との関わり方など多くのことに悩むことがありました。しかし、「新人トレーナー制度」のおかげで、日々のことは年齢の近い２年目職員に、担当ケースの目標設定やプログラム設定などは先輩職員に相談することができ、安心して診療を行うことができています。

日々の診療では担当患者さんの退院後の生活を見据えることができず、機能のことを考えてしまいがちでしたが、今では急性期から退院までの診療に加え、外来フォローアップも経験し退院後の生活を想像することができてきたように感じます。これからも日々の臨床を大切にし、経験を積んでいきたいです。ぜひ皆さんも一緒に当院で働きましょう！

Job

言語聴覚士

横浜市立市民病院

Yokohama Municipal Citizen's Hospital

部門紹介

言語聴覚部門は令和５年４月１日現在５名の言語聴覚士（経験２～20年以上）が勤務しています。市民病院は急性期総合病院であり、当部門への依頼は脳外科や脳神経内科だけでなく耳鼻咽喉科、呼吸器内科や消化器外科など多岐に渡ります。そのため言語聴覚士が対象とする疾患は脳血管障害、神経筋疾患やがんなど様々で、これらの疾患に伴う嚥下障害、失語症や運動障害性構音障害などに対する評価・訓練を行っています。また症例数は少ないものの、音声障害や小児の訓練も行っています。嚥下障害についてはVFやVEによる評価に加え、リハビリテーション科医師、摂食嚥下認定看護師や栄養士とともに週１回嚥下回診・カンファレンスを行いチームで介入しています。育成体制としては学会･研修会への派遣、院内での症例検討会や実技研修（吸引など）があり、新人職員については２年間先輩職員とともに業務を遂行するトレーナー制度を活用しています。

職員からのメッセージ

当院は急性期の総合病院で、脳血管疾患やがん、神経筋疾患・呼吸器疾患等の様々な疾患の患者さんに対する嚥下障害・構音障害・言語障害の評価・訓練を行います。対象とする疾患の種類や求められるリハビリの質・内容が多岐に渡るため、最初は戸惑うこともありましたが、先輩職員やリハビリテーション科医師に相談し安心して評価・訓練を行っています。当院の言語聴覚療法では嚥下障害が最も多い割合を占めています。毎週金曜日に行われる嚥下回診やカンファレンスは、認定看護師や栄養士など多職種で構成されたチームで行い、安全かつQOLが向上するような食事を提供できるようアプローチしています。患者さんご自身の強い思いが実り、経管栄養から経口摂取に移行することができた時はSTとして、またチームの一員としてとてもやりがいを感じます。

当院は、患者さんの人生に寄り添いながら言語聴覚士としての幅広い経験ができ、また、先輩職員や他職種に相談しやすい環境です。ぜひ一緒に働きましょう。

横浜市立脳卒中・神経脊椎センター

Yokohama Brain and Spine Center

部門紹介

当院の言語聴覚療法部門では、「話すこと、食べること」を大切にしています。数年から20年以上と幅広い経験年数からなるSTが在籍し、失語症・構音障害・摂食嚥下障害等に対し評価・練習を行っています。診療体制は、急性期・回復期・外来のいずれの病期も担当します。対象疾患は、言語聴覚療法の対象として全国的には摂食嚥下障害の比率が高まっていますが、当院では失語症が半数以上を占め、次いで嚥下障害が40%で、嚥下造影検査や嚥下内視鏡検査に同行する機会も多いです。また高次脳機能障害や認知症に対しても、心理療法士と日々協力して診療しており、STにとってバランスよく各領域の経験を積み重ねられる職場です。さらに、当院の特徴である「急性期から回復期まで質の高い専門医療を一貫して提供する」に則り、急性期から回復期、外来まで、可能な限り１人の患者をSTが継続して担当し、障害に対する理解を深めています。

職員からのメッセージ

私は、令和２年の春に脳卒中・神経脊椎センターに入職しました。当院に入職する以前は児童発達支援施設にて発達障害児・者への発達支援、その後は更生相談所にて補装具の判定や聴覚障害者の相談対応に従事していました。いずれも非常にやりがいのある仕事ではありましたが、STを目指すきっかけとなった失語症の臨床に従事してみたいという思いが強くなり、卒後数年経過していましたが、当院を希望し入職しました。学校卒業後、成人領域の言語聴覚療法に関わったことがなかったため、不安もありましたが、同年代から経験年数の非常に長い先輩まで、様々な方に手厚く教えていただきながら、実りの多い毎日を過ごせています。また、急性期から回復期、さらには外来まで１人の患者さんを担当する機会もあり、各時期での患者さんの苦しさ、嬉しさを共有しながらリハビリに取り組めることも、当院で働く醍醐味の一つだと感じています。こんな経験ができる当院で一緒に働いてみませんか。

Ｊｏｂ

視能訓練士

横浜市立市民病院

Yokohama Municipal Citizen's Hospital

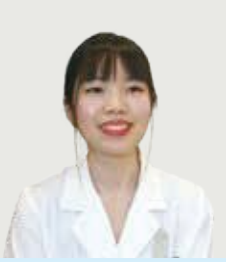
部門紹介

市民病院の眼科は、令和５年４月１日現在、医師４名、視能訓練士５名（内常勤２名）、医師事務２名の計 11 名が働いています。

白内障や緑内障の手術の他、令和２年５月に新病院に移転してからは、硝子体の手術にも力を入れ始めています。

糖尿病や高血圧など生活習慣病による合併症や、脳神経内科などの脳疾患による視野欠損や複視、また形成外科の眼外傷など、他科からの依頼を受けて、眼科としての診察を行っています。
視能訓練士は医師の指示を受けて、様々な検査を行っています。
医師はその検査結果から診断をするので、正確な検査をするよう心がけています。

令和５年１月から広角カメラが導入されたことにより、糖尿病網膜症などの検査が簡単に行えるようになったので、患者さんの負担が少なくなりました。今後も患者さんに負担の少ない検査機器が増えるといいと思います。



職員からのメッセージ

視能訓練士は医師の指示を受けて、様々な検査をしています。病院の中でも認知度が少ない職種ですが、ご存知でしょうか？

視力や視野、眼底撮影や眼球運動等々の検査をしていて、患者さんの自覚に頼る検査が多いので大変ですが、先輩にわからないことを聞いたり、技術のアドバイスをいただいて、試行錯誤していく中で、３年経ってだんだんと自信を持って検査できるようになってきました。

当院は多くの科を有する総合的な病院であり、他科からの併診の患者さんも多いので、眼の合併症を起こす全身の様々な疾患の方の検査をすることができます。そのために眼の合併症について医師の指導を受けたり、書籍を読んで勉強しています。職場の雰囲気も和気あいあいとしていて、職種関係なく仲がいいです。皆さんもぜひ一緒に働いてみませんか。

Ｊｏｂ

心理療法士

横浜市立脳卒中・神経脊椎センター

Yokohama Brain and Spine Center

部門紹介

当院の心理療法は、亜急性期から回復期の脳血管疾患を主な対象疾患として、公認心理師が言語を除く高次脳機能障害や認知機能障害、気持ちの状態に働きかけています。プライバシーが保護された環境で、様々な心理検査や面接、行動観察を通して脳の損傷によって生じた障害を見立てます。認知訓練として、課題実施による障害の軽減や生活場面での対処法の習得を図りながら、障害への気づきを促します。同一疾患が多い当院の特徴を活かし、同じような障害の方々によるグループ訓練も行う場合があります。心理カウンセリングでは、脳卒中後の抑うつや感情面の動揺、意欲低下などに対して、対話によるカウンセリングのほか、具体的な行動目標を設定して気持ちより行動に焦点をあてる方法や、描画や箱庭で内面を表現する方法などを用いて、混沌とした感情を整理し今の自分と向き合う援助をしています。また、もの忘れ外来ともの忘れドックの心理検査を担当しています。

職員からのメッセージ

私は、横浜市立脳卒中・神経脊椎センターの開院準備室から今日まで、心理療法士として勤務してきました。公認心理師・臨床心理士・臨床神経心理士を入職後に取得しました。

主に、脳の病気・怪我等で入院された患者さんのメンタルヘルスの維持・改善、そして高次脳機能障害のリハビリテーション（認知リハ）に携わっています。高齢の方から復学・復職を希望される方まで幅広い年齢層の患者さんとお会いしています。

多くの患者さんは当センターに数か月間入院し、さらには退院後外来でリハビリに取り組みます。その過程で患者さんは悲しみ・葛藤しつつもしなやかに乗り越え、“ご自分らしさ”を再確認していかれます。心理療法士は、他の医療職とともにその“伴奏”者の一人となる大変やりがいのある仕事です。こんな経験ができる当院で是非一緒に働きましょう。

Job

管理栄養士

横浜市立市民病院

Yokohama Municipal Citizen's Hospital

部門紹介

34の診療科を有し、地域の中核的な急性期病院として、「がん」「救急」「感染症」を三本柱に、母子医療センターにおける「産科」「小児科」などの診療機能を強化している市民病院において、栄養は、すべての診療科における治療効果を底上げする重要な役割を有しています。管理栄養士だけの力ではなく、医師、看護師、薬剤師などたくさんの医療職種と協力しながら、患者さんの生きる力を支えています。

入院患者さんへの食事提供業務は専門業者に委託しています。「安全でおいしい食事」「治療効果があがる食事」「食べる人に楽しみと安らぎを与える食事」を通し、「個々の状態に合わせた栄養管理」ができるよう協働しています。

以前と同じような食事がたべられなくなった患者さんの栄養管理にも、積極的に関わっています。形態を変えたり、栄養補助食品を組み合わせたりして、患者さんがご自宅へ戻られても続けられるよう栄養相談を行い支援していきます。

職員からのメッセージ

管理栄養士の仕事は大きく分けて、栄養相談と入院患者さんの栄養管理があります。

栄養相談では小児から高齢者まで幅広い年齢層の患者さんがおり、糖尿病や腎臓病をはじめ、がんや炎症性腸疾患等の様々な疾患を受け持ちます。それぞれの病態や嗜好、家庭環境等が違うので、継続できそうな食事療法を一緒に考えていきます。

入院患者さんの栄養管理では、多職種でカンファレンスを行ったり、NSTや嚥下チーム等の一員として回診に参加して、栄養摂取方法を提案していきます。

入職当初はわからないことばかりでしたが、先輩方のサポートや勉強会での学びのおかげで、現在はICUとHCU等を担当しています。NST専門療法士の認定資格も取得しました。

毎日が勉強ですが、より良い栄養管理ができ、患者さんやその家族に喜んでいただけた時、もっと仕事が楽しくなります。公園に隣接した緑豊かな病院で共に働くことを楽しみにしています。

横浜市立脳卒中・神経脊椎センター

Yokohama Brain and Spine Center

部門紹介

当院の栄養部は、献立作成から、調理、配膳、下膳は給食提供業者に委託されており、職員は給食管理及び指導業務を行っています。

給食内容の特徴である脳卒中後の嚥下障害に対応する嚥下食は、細やかに調整できるように工夫しています。

栄養管理業務では、入院時のアセスメントによって栄養情報を得て、問題がある場合は医師や看護師とともに食事や栄養内容の相談・調整を行います。食事時の病棟訪問も盛んに行われ、患者さんに対する食事の指導や助言を行うこともしばしばあります。

またNST（栄養サポートチーム）をはじめとしたチーム活動への参加も積極的に行っており、褥瘡チーム、感染対策チームなどの一員としても活動しています。NSTでは、食事の調整のみならず、栄養剤投与患者のトラブルを多職種でカンファレンスし、ラウンドを行います。

職員からのメッセージ

当院は、脳卒中の後遺症による機能障害や、脊椎疾患の術後の疼痛で食事が摂れない患者さんなど、栄養管理を必要とする患者さんが多数を占めています。

直接献立を立てたり、食材を選んだりすることはありませんが、高血圧や糖尿病、腎臓病をはじめ、嚥下機能障害も多く、献立内容の管理、指導を積極的に行っています。

栄養指導は、脳卒中の再発予防のための、高血圧、糖尿病をはじめ、腎機能低下の患者さんも多くみられるほか、低栄養防止や、嚥下機能障害に対応した食形態の説明など、様々です。機能障害の程度も一様ではなく、高齢者家庭での食生活状況の変化など、患者さんの生活に応じた目標設定の難しさを感じますが、「これならできそう、話を聞いて良かった。」そう言ってもらえるような指導を心がけています。

近年、栄養管理は、病院の施設基準に明確に位置づけられ、管理栄養士の業務も今まで以上に責任が重くなっていますが、大きなやりがいを持って業務に取り組んでいます。

Ｊｏｂ

臨床工学技士

横浜市立市民病院

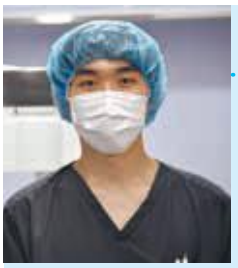
Yokohama Municipal Citizen's Hospital

部門紹介

市民病院の臨床工学部は、令和５年４月１日現在、18 名の臨床工学技士が所属しています。市民病院はがん、救急、感染症を３本柱に地域住民の皆様に必要な政策的医療を担っています。臨床工学技士は血液浄化センター、集中治療室、病棟、血管撮影室、手術室、専門外来等において重症患者等の医療機器使用患者の検査、治療に携わっています。臨床工学技士は患者さんにより近い場所で直接的に医療を提供することを心掛けています。また、夜間、休日における救急対応、一貫した重症患者管理を行うため、二交代制勤務をおこなっています。

さらに、臨床工学部は医療機器安全管理、呼吸療法サポートチームの運用にも主体的に関与しており、市民病院の医療水準の向上に貢献しています。さらには臨床工学技士の日本 DMAT 隊員も在籍しており、災害対策においても重要な役割を担っています。

令和２年５月には新病院が開院しました。従来からの救急医療や高度急性期医療への関与に加え、新型コロナウイルス感染症患者への対応やロボット支援手術への対応など、臨床工学部の役割は重要さを増してきます。これらの期待に応え、市民の皆様から応援していただける市民病院、臨床工学部となるべく努力を続けていきます。



職員からのメッセージ

私は平成 30 年に入職しました。横浜市では人事考課制度を導入しており、目標を設定して上司と共有しながら日々の業務に取り組みます。私の1年目の目標は夜勤業務を担当することでした。当院の臨床工学技士は1人体制で夜勤業務を行っているため、夜勤業務を担当するには様々な緊急業務に対応できなくてはなりません。難しい目標でしたが、上司や先輩の支えもあり、達成することができました。2、3年目では血液浄化、呼吸療法、心臓カテーテル、手術室、医療機器管理業務をローテーションで担当し、4年目からはより専門性の高いカテーテルアブレーション業務に挑戦しています。また、部内ではグループ活動として、安全管理や情報管理、災害対策といった臨床業務以外で必要不可欠な活動を行っています。私は1年目から災害対策グループに所属しており、4年目からはグループリーダーとして災害訓練の企画や災害対策物品の管理、院外の学会やセミナーへの参加などを行っています。入職当時は災害対策についてはあまり関心がありませんでしたが、グループ活動を通じて災害対策の必要性を実感し将来は DMAT 隊員になることが目標です。臨床工学技士としてのスキルを幅広い分野で活かすことができる職場だと思います。

横浜市立脳卒中・神経脊椎センター

Yokohama Brain and Spine Center

部門紹介

脳卒中・神経脊椎センターは現在、３名の臨床工学技士が配置されています。当直業務はありません。臨床業務は手術室の自己血回収やナビゲーションなどの機器操作、HCU や病棟での CPAP・在宅医療を含む人工呼吸療法、血液透析、血漿交換などの血液浄化療法、脳深部刺激療法（DBS）や脊髄刺激療法（SCS）等を含む植え込みデバイスの対応、CPAP 外来の補助などをおこないます。医療機器管理業務は原則すべての医療機器について登録管理し、購入から廃棄まで依頼を断ることなく対応しています。人数が少ないことによる大変さもありますが、経験者が多く、市民病院はもちろん、他施設の臨床工学部門と幅広く連携しています。院内においても医師、看護師、その他医療職、事務職、委託の方々との関係も良好な働きやすい職場です。

職員からのメッセージ

私は横浜市立大学医学部附属市民総合医療センター、横浜市立市民病院を経て、平成 26 年から脳卒中・神経脊椎センターに配属され、臨床工学技士業務と医療安全管理業務を担当しています。臨床業務は市民病院などに比べ多くありませんが、医療機器管理業務は院内すべての医療機器を対象としている全国的にも数少ない施設です。医療安全やチーム医療等にも積極的に参加していますので、臨床工学技士として幅広いスキルを身につけることができる職場だと思います。当院の名称にある脳卒中は、要介護の最大の原因といわれている疾患です。一命を取り留めても寝たきりや半身麻痺、言語障害などの重い後遺症が残ることが少なくありません。私たちは高度で専門的な治療を提供するため多職種で協力し、救命や後遺症の軽減に努め、患者さんやご家族に「この病院でよかった」と思われるように頑張っています。ぜひ皆さんも横浜市職員として他施設の臨床工学技士とも積極的に連携し、リードしていけるような臨床工学技士を目指してください。

Ｊｏｂ

診療放射線技師

横浜市立市民病院

Yokohama Municipal Citizen's Hospital

部門紹介

市民病院の画像診断部は、一般撮影、CT、MRI、透視撮影、血管撮影、核医学検査、放射線治療、救急撮影、検診等、幅広い業務を担っています。令和５年４月１日現在、職員 48 名（男性 30 名、女性 18 名）で構成されており、20 代から 60 代まで幅広い世代が活躍している活気あふれる職場です。

業務以外では、第一種感染症指定医療機関に勤める技師として、日本診療放射線技師会誌（令和２年 11 月）に COVID-19 の感染予防策を特集として投稿するなど、学術的な活動も活発に行っています。また、部内や院内で勉強会が多数開催されており、職員のスキルアップを図る教育体制が整っています。

現在では「検診マンモグラフィ撮影認定技師」「医学物理士」「X 線 CT 認定技師」「医療情報技師」などの認定資格を取得した診療放射線技師が多数おり、部内の人材育成や対外的な講師役など、幅広く活躍しています。

令和２年の新病院開院とともに、最新の装置を多数導入しました。令和４年には最新放射線治療装置「HALCYON」を導入し、高品質な放射線治療を短時間で提供することが可能となりました。新しい装置とやりがいのある職場で、私たちと一緒に頑張りましょう！

職員からのメッセージ

私は平成 31 年に入職しました。私たちは、院内全体の画像検査を担う専門部署として日々良質な医療画像の提供に努めています。新人として入職してからは一般撮影、CT、MRI、救急撮影のモダリティを経験し、まずは夜勤業務に従事することを目標としてきました。私自身も入職当時は不安だらけで自立して働いていけるか心配でしたが、当部では、経験豊富な先輩技師のもとで学びながら各々の進捗状況に合わせた研修を行える体制が整っており、そのような手厚いサポートのお陰もあって今では様々な業務に対応できるようになりました。現在私は新病院移転に伴い導入された新装置を用いて学術研究に取り組んでいます。当院は研究や学会発表、資格認定に必要なサポートも充実しているため、積極的にスキルアップに挑戦できる職場です。そして何よりも画像診断部は職場の雰囲気がとても良く、楽しく仕事をして、技術知識の向上をしたいという方、大歓迎です！

横浜市立脳卒中・神経脊椎センター

Yokohama Brain and Spine Center

部門紹介

脳卒中・神経脊椎センターの画像診断部は、令和５年４月１日現在、職員 18 名で構成されており、一般撮影、骨密度測定、透視撮影、血管撮影、CT、MRI、核医学検査等を行っています。また、低線量かつ立位荷重位で全脊椎、膝関節等の形体や配列の評価ができるＸ線撮影装置「sterEOS イメージングシステム」を県内で唯一導入しています。このシステムにより、立位２方向同時撮影及び３Ｄ解析が可能となり、高度な治療計画や診断に用いられています。

また当院は、24 時間 365 日、脳卒中診療が行える体制を整えています。当部門でも昼夜を問わず、MRI 検査や脳血管内治療等に対応できる体制を整え、最適な脳血管内治療を迅速に提供できるようにしています。

急速に進歩し続ける医療の中で、専門病院として最適な医療を提供できるよう最先端技術の習得に努めています。一人ひとりのキャリア形成を重視し、個別の教育プログラムを用いて研修を行うことで、個々にあったキャリアアップをサポートしています。

職員からのメッセージ

当院の画像診断部は、若手からベテランまで幅広い年齢層が在籍しています。分からないことは気軽に相談ができ、周りの先輩がサポートしてくれるので安心して働くことができる職場です。

入職して半年間は、夜間勤務に向けた研修カリキュラムが細かに組まれています。一般撮影、CT、MRI 等の研修があり、モダリティ毎にトレーナー職員と面談をし、自身の進捗状況を確認しながら研修を進められます。さらに、幅広いモダリティに携わることができるため、様々な経験を積むことができます。併せて、定期的に部内で勉強会が開催されるので、スキルアップに繋がっています。

私は現在３年目になり、学んだことを現場で発揮できると自身の成長を感じ、日々やりがいを持って働いています。最近では、放射線防護や線量管理のため放射線計測分野の勉強に力を入れており、自身の興味のある分野に積極的に取り組めています。

皆さんと一緒に働けることを楽しみにしています。

Job

臨床検査技師

横浜市立市民病院

Yokohama Municipal Citizen's Hospital

部門紹介

24 時間 365 日体制で患者さんを受け入れる高度急性期病院、かつ、神奈川県で唯一の第一種感染症指定医療機関である市民病院の検査・輸血部は、中央検査室（生化学、血液、一般、輸血）、細菌検査室、病理検査室、生理機能検査室、外来採血室から構成されています。診療科の多様なニーズに応えられるよう新規検査の導入や、迅速かつ柔軟な対応を心がけています。各部門が協力して、新型コロナウイルスの PCR 検査を 100％院内化し、迅速に結果を出すことで救急医療や病床管理等に貢献しています。院内のチーム医療、がんゲノム医療、ドック事業にも積極的に参加しています。医療の世界は日進月歩であるため、学会参加や発表、資格取得を推奨し、将来の臨床検査業界を担う人材を育成しています。また、臨床検査室に特化した国際規格である「ISO15189」の認定を維持することで、より高い技術水準と検査精度を兼ね備えた検査室運営を目指しています。

職員からのメッセージ

私は、平成 31 年に入職しました。入職してから３年半は、中央検査室で検体検査業務（生化学・血液・一般・輸血）を行っていました。令和４年度からは生理機能検査室へ異動し心電図や呼吸機能検査、聴力検査などを行っています。また、令和５年度からは超音波検査業務に取り組み、先輩職員の指導のもとできる業務を増やし、学ぶことにやりがいを感じています。

検査・輸血部は検査室間の異動があるため、業務の幅が増え多方向の視点から検査を行うことができます。また、院内のチーム医療にも積極的に参加し他職種との連携も図っています。さらに、認定資格を取得している職員も多くいるため、資格取得に向けても先輩職員のフォローのもと学ぶことができる環境であると思います。

分からないことも相談しやすく、職員同士で協力しながら楽しく働くことができています。また、休暇もしっかり取得できるため、臨床検査技師として知識を深めつつ安心で働きやすい職場であると思います。

横浜市立脳卒中・神経脊椎センター

Yokohama Brain and Spine Center

部門紹介

脳卒中・神経脊椎センターの検査部は、血液検査、生化学・免疫検査、一般検査、病理検査、細菌検査、輸血検査からなる検体検査部門と、生理機能検査部門で構成されています。検体検査のうち、血液検査、生化学・免疫検査、一般検査はブランチ形式で委託運営しており、その他の部門を自主運営しています。病理検査、生理機能検査では、臨床研究分野の検査も行っています。特に病理検査では、専門性の高い検査を行っていて、臨床研究に大いに活用されています。

緊急で搬送される脳卒中患者は、診断や治療に専門的な検査が必要になります。診療時間外でも、迅速に緊急検査や予約外検査に対応し、診療に貢献しています。

公立の特定領域の専門病院検査部として、高い医療レベルに追いつくよう、検査の知識や技術を、常にアップデートするように心がけており、医学の進歩に貢献するため、新しい工夫や検証結果を学会等で発表しています。

職員からのメッセージ

私は、生理検査室で心電図や超音波検査、脳波、術中モニタリング検査等を行っています。

当院は比較的小規模なため、一人一人がすべての生理検査業務を習得することを目標とし、様々な検査に携わっています。先輩職員と目標を決め、定期的に進捗状況を確認しながら進めていくため、不安な点や疑問点もすぐに解消できる環境が整っています。

脳血管疾患や神経・脊椎疾患といった専門分野を取り扱うことも特徴です。そのため、脳波や筋電図といった神経生理検査の依頼が多く、様々な症例を経験することができます。また、臨床との距離も近く、医師の検査介助や術中モニタリング検査を通して、臨床目線の捉え方を学んでいます。このように様々な検査に携わり経験を積むことで、広い視野を持ち臨床に活かすことができます。

まだまだ未熟ではありますが、先輩方に助けていただきながら多くの経験を積み、迅速で正確な検査を行えるよう日々努めています。

Job

医療ソーシャルワーカー

横浜市立市民病院

Yokohama Municipal Citizen's Hospital

部門紹介

患者総合サポートセンターは、当院の理念「安心とつながりの拠点」の実現に向けて「入院前面談」「病床管理」「入退院支援・相談調整」「地域連携」の機能を有し、当院におけるPFM(※)推進の中心的な役割を担う組織です。副病院長であるセンター長以下、看護師、医療ソーシャルワーカー、事務の総勢約30名が所属しています。

その中で医療ソーシャルワーカーは8名配属されており、「入退院支援・相談調整担当」として、院内外の多職種と協力しながら患者家族が抱える社会的、心理的、経済的な課題解決に向けた支援を行っています。

新採用職員に対しては先輩職員がトレーナーとして1年間指導にあたり、専門職団体が主催する研修への参加もバックアップしながら、部門全体で積極的に育成しています。

※PFM（Patient Flow Management：患者が安心して医療を受けられるよう、入院前から一人ひとりの身体的、社会的、精神的背景を把握して課題解決に早期に着手すると同時に、入院中はもちろん退院後も含めて多職種が協働して支援を行うシステム）

職員からのメッセージ

患者総合サポートセンターには様々な機能が集まっていますが、その中で私は総合相談支援、入退院支援を担当しています。病気やけがによって様々な困りごとが生じたときに社会福祉の立場から支援を行います。

相談室にふらっと来られる方や、主治医、病棟等の院内、地域関係機関の院外から相談が舞い込んできます。相談内容は多岐にわたり、様々な方と協力しながら係内のみんなで力を合わせて支援を行っています。困った時には係のみんなが頼りになります。

「安心とつながりの拠点」の病院職員として、市民や院内外の方から信頼を得られるワーカーになれるよう日々奮闘しています。

幅広い年齢層の方、様々な相談内容の支援にかかわることができ、たくさんの経験を積むことができます。

クライアントに寄り添った支援ができるソーシャルワーカーを目指して一緒に歩んでいきましょう。みなさんと一緒に働くことを楽しみにしています。

横浜市立脳卒中・神経脊椎センター

Yokohama Brain and Spine Center

部門紹介

脳卒中・神経脊椎センターの地域連携総合相談室では、当院の理念「安心・納得できる安全・誠実で高度な専門医療」のもと、患者さん・ご家族へのサポートをしています。医療ソーシャルワーカー・看護師・事務で構成されており、患者さん・ご家族の相談内容に適した職員が院内スタッフや地域の関連機関と連携を図っています。患者さん・ご家族に安心して当院を利用していただくと共に、療養生活の心配事が軽減できるようご相談に対応しています。

令和5年4月1日現在、8名の医療ソーシャルワーカーが在籍しており、医療局採用職員と本市社会福祉職採用職員が、それぞれの強みを活かして一緒に働いています。また、当院は急性期病棟、地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟があり、患者さんの病期に応じたソーシャルワークを学ぶことができます。若手の職員からベテランの職員まで幅広い経験年数の職員が揃っており、OJTや外部研修への参加を計画的に行い、人材育成に取り組んでいます。

職員からのメッセージ

当院には脳卒中や神経難病、身元が分からない方の救急搬送など、様々な病態や社会背景を持つ患者さんが入院・通院されており、公立の専門病院として、院内の豊富な専門職や地域と連携して退院支援を行っています。

当院は機能の異なる病棟があり、一病院で様々な病期におけるソーシャルワークの経験を積むことができ、キャリアアップに繋がると感じています。制度やサービス、社会情勢の変化に合わせて自己研鑽は欠かせませんが、室内での研修やトレーナー制度があり、様々なキャリアを積んだ先輩もいるため、相談しやすい環境です。突然の病気で生活が一変したり、元々抱えていた課題が病気を機に顕在化することもあり、患者さんやご家族の精神的なサポートに難しさを感じることもありますが、患者さん・ご家族の力になれることは病院のソーシャルワーカーとしてやりがいがあります。ぜひ一緒に働きましょう！

Ｊｏｂ

病院総合事務

部門紹介

横浜市立病院「病院総合事務」の職員は、医療局病院経営本部において、病院運営に係る事務（診療報酬請求に伴う分析業務、精度管理業務、委託業者の管理業務、医業収入確保に伴う企画・立案・調整業務、施設基準届出関連業務、院内がん登録業務、院内システム管理、地域連携業務等）に従事します。

令和５年４月現在、病院経営本部独自採用の事務職員は 16 名（診療報酬事務７名、病院総合事務９名）おり、病院全体の事務職員のうち約 16％を占めています。それぞれ総務課、医事課、経営戦略課、患者総合サポートセンター等、様々な部署で活躍しています。少子高齢化や医療ニーズの多様化、医師の働き方改革等、医療を取り巻く環境は一層厳しくなる中で、「病院総合事務」にはその変化に対応し、柔軟かつ長期的に持続可能な組織運営をしていくスキルが求められます。「病院総合事務」を長期的に経験することで、病院企業会計・病院経営に関する知識、診療報酬・診療情報に関する専門的な知識、病院労務・衛生管理に関する知識、地域連携業務を行う総合的な知識・調整力を習得していくことが可能です。

長いキャリアを通じて幅広く事務部門を経験することで病院事務全般に精通し、医療者からの信頼を得ながら、多様な職種で構成される病院をつなぐ存在として、広い視野で改革を提案・実行していくことを目指します。

横浜市立市民病院　Yokohama Municipal Citizen's Hospital

職員からのメッセージ

市民病院が多くの新型コロナウイルス陽性患者を受入れ地域医療に貢献していることを知り、その一員として働きたいと感じたため、入職を希望しました。

私が配属となった医療情報課は、電子カルテを中心とした院内システムの管理が主な業務であり、医療職を中心とした他部署職員から多くの問合せがあります。入職当初はその対応に戸惑いましたが、先輩方の丁寧な指導により理解を深めることができました。問合せに適切に対応でき、依頼者から「ありがとう」と言ってもらえることが何よりのやりがいです。

教育面では育成計画が用意されていて、働く上での態度･姿勢、必要な知識・能力をトレーナーに評価してもらいます。トレーナーからのアドバイスを真摯に受け止めることで、偽りなく自分を評価でき、成長に繋がっていると感じています。

また、クリニカルパス大会や英会話教室などの学習の場も用意されていて、多職種で交流できることも大きな魅力です。

高齢化が進む中、チーム医療のコーディネーター役として医療事務員の役割は､益々高まっています｡地域医療のリーディングホスピタルである市民病院で、ぜひ一緒に働きましょう。

横浜市立脳卒中・神経脊椎センター　Yokohama Brain and Spine Center

職員からのメッセージ

私は昨年度、他医療機関から転職をしてきました。

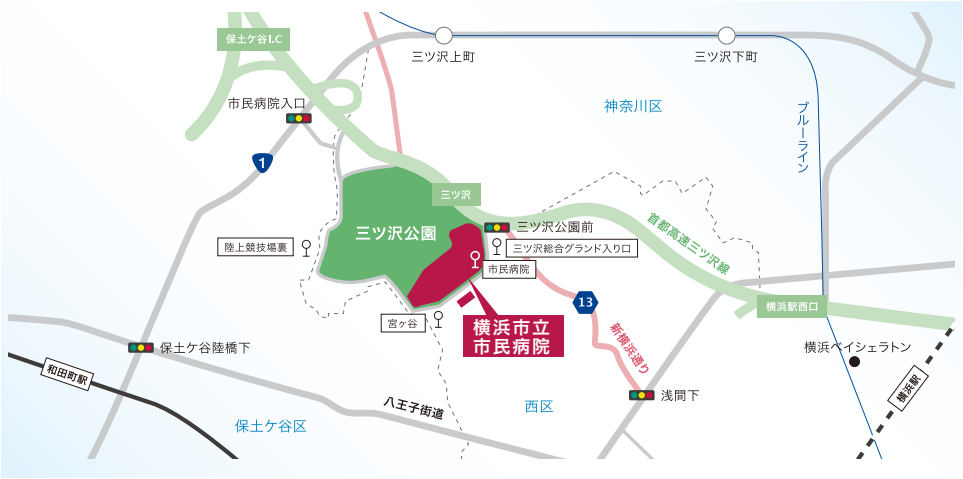
地域連携総合相談室という部署で、窓口対応や地域の医療機関や救急隊などへの訪問活動や市民講演会の運営などを行っています。いわば、病院と地域を「繋ぐ」仕事です。

これまでの病院の勤務経験を活かしながら、新たな知識を学べる環境でやりがいを感じながら仕事ができています。それは、先輩職員にも他職種にも話しかけやすい雰囲気があり馴染みやすい環境を作ってくれているからだと感じています。

中には、全く病院経験がなく入職や転勤をしてくる職員もいますが、その場合でも、一から学べる環境が整っています。

入職してから、家族との時間も多く取れるようになり、日々の業務にもやりがいを感じているのでとても充実しています。今後も、病院総合事務として幅広い業務を経験していきたいと考えています。ぜひ、一緒に働ける日を心待ちにしてします。

横浜市立市民病院



〒221-0855 横浜市神奈川区三ツ沢西町1番1号
TEL.045-316-4580(代) ／ FAX.045-316-6580
https://yokohama-shiminhosp.jp/

横浜市立市民病院　検索

JR「横浜駅」西口から市営バス

- 87系統／34系統「市民病院」下車
  (平日の日中)

JR「東神奈川駅」から市営バス

- 88系統「市民病院」下車
  (東神奈川駅西口～東横反町駅前～
  三ツ沢上町駅前～市民病院)

保土ケ谷区内や相鉄線沿線から市営バス

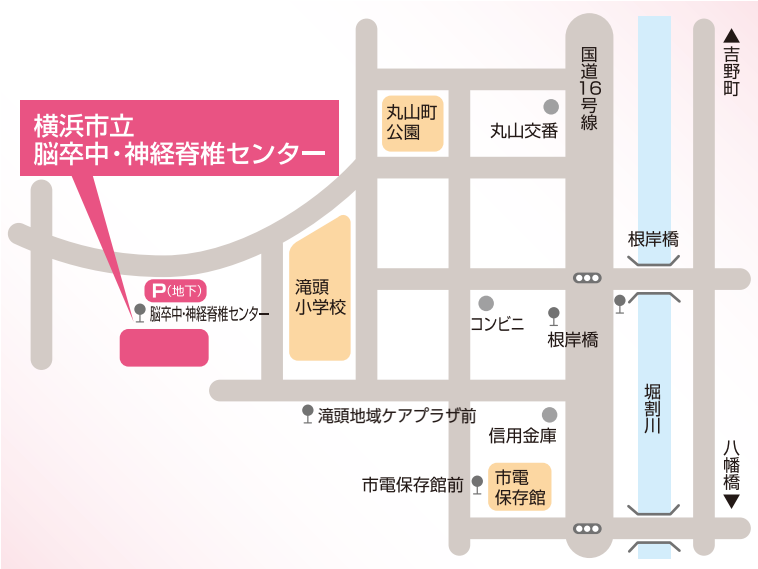
- 208系統「市民病院」下車
  (横浜駅西口～和田町～市民病院)

※バス停「三ツ沢総合グランド入口」下車 徒歩1分
・横浜駅西口から三ツ沢総合グランド経由のバスに乗車

お車でお越しの方

- 新横浜通り 三ツ沢公園前交差点そば
  (第三京浜道路及び首都高速神奈川2号
  三ツ沢線「三ツ沢」出口を下りてすぐ)

横浜市立脳卒中・神経脊椎センター



〒235-0012 横浜市磯子区滝頭一丁目2番1号
TEL.045-753-2500 ／ FAX.045-753-2859
https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/byoin/ybsc/

横浜市立脳卒中・神経脊椎センター　検索

JR「根岸駅」から市営バス

- 135系統 脳卒中・神経脊椎センター経由 根岸駅前行
  「脳卒中・神経脊椎センター」下車すぐ
- 78系統 磯子駅前行「滝頭地域ケアプラザ前」下車 徒歩5分
- 21系統 市電保存館前行「市電保存館前」下車 徒歩7分

京浜急行「黄金町駅」から市営バス

- 68系統／102系統 滝頭行「根岸橋」下車 徒歩8分

市営地下鉄「弘明寺駅」から市営バス

- 9系統 滝頭・磯子駅前行「滝頭地域ケアプラザ前」 徒歩5分

市営地下鉄「吉野町駅」から市営バス

- 113系統 磯子車庫前行／156系統 滝頭行「根岸橋」下車
  徒歩8分

※113系統と156系統とはバス停が違います。113系統の方がバスの本数が多いです。

京浜急行「南太田駅」、市営地下鉄「吉野町駅」から シャトルバス

- 脳卒中・神経脊椎センター行の無料シャトルバス

OPEN
YOKOHAMA

採用に関する
お問い合わせ

横浜市医療局病院経営本部人事課
ＴＥＬ:045-671-4822(平日8:45～17:00)
MAIL:by-comesaiyo@city.yokohama.jp

横浜市医療技術職員・行政職員　採用　検索

令和５年度　発行